

新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画

申請事業名(主)	新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業
申請事業名(副) ※任意	新しい日常の新たな支援の方法を考えよう

入力数 主 19 字 副 19 字

申請資金分配団体名	認定特定非営利活動法人みえきた市民活動センター
-----------	-------------------------

休眠預金事業への採択/申請歴	<input type="checkbox"/>	2019年度資金分配団体に採択	<input type="checkbox"/>	2019年度実行団体に採択	<input type="checkbox"/>	2020年度資金分配団体(通常枠)に申請検討中	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
	<input type="checkbox"/>	第1期新型コロナウイルス対応緊急助成に複数事業で申請						

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> 1)-①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 1)-②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 1)-③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> 2)-④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 2)-⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> 3)-⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 3)-⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

実施時期	2020年 7月 ~ 2021年 6月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 (三重県桑名地域2市2町、桑名市、いなべ市・東員町・木曾岬町)	事業対象者: (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	「学習支援、虐待、ひとり親家庭、などの課題を抱える子ども」「外出困難、孤立、などの課題を抱える障がい者や高齢者」「偏見、自主規制などが地域社会にもたらす課題や困難に対し、新しい日常に向けての対策に取り組む団体」	事業対象者人数	3分野×30団体×受益者約10人×実行回数α = 約900人×α
------	---------------------	--------	---	---------------------------------------	---	---------	----------------------------------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的	この会は、まちのさまざまな課題を明らかにし、その課題の解決に取り組めます。また、それらの課題を自分たちの手で解決していこうという人たちに対し、その活動を応援し、その活動を行いやすい環境を整えていきます。これにより、市民自身による市民社会づくりに寄与します。
(2)申請団体の概要・事業内容等	当団体は、三重県桑名地域を中心に中間支援団体として主に以下の事業をおこなっている。 ①まちのさまざまな課題の調査研究事業 ②その解決のための事業 ③まちのさまざまな課題を解決しようとしている市民活動の調査研究 ④その市民活動への応援事業 ⑤その市民活動を行いやすい環境の調査研究事業 ⑥その市民活動を行いやすい環境づくり事業

入力数 (1) 128 字 (2) 162 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題	<p>◆調査・情報源</p> <p>①当団体の市民活動への応援事業である「市民活動応援☆きらきら基金」の登録団体への聞き取りによる影響調査(3月~5月)</p> <p>②全県下ネットワーク団体、対象地域の各市民活動センター実施のアンケート</p> <p>◆問題・課題</p> <p>回答団体の9割が活動を休止する中、NPO・ボランティア団体が最も得意とする「寄り添って支援する」活動が出来ず、支援者に様々な悪影響を及ぼしている。聞き取り・アンケートから課題の一部を以下に抜粋。</p> <p>1) 子どもを取り巻く環境</p> <p>① 非正規社員の多いひとり親家庭の母親が、雇止めにより減収。アルバイトのかけ持ちにより、子どもと接する時間が取れず勉強の世話も出来ない。休校による食費の増加が、更に家計も圧迫。心身ともに疲労の蓄積が限界に達している。</p> <p>② コロナ禍で、ストレスを抱えた保護者へのアンガーマネジメントセミナーが開催出来ず、子どもへの虐待が非常に懸念される。</p> <p>2) 障がい者の外出支援</p> <p>① 支援者が希望する買い物等の外出が出来ない。電話でフォローするも、ストレスから身体的な病気(円形脱毛症)を発症してしまい、心身の健康が非常に危ぶまれる</p> <p>3) 地域コミュニティ</p> <p>① 学校再開後、登下校時の不審者の報告が相次いでいるが、子どもの分散登校などで、ひとりで帰る子どももあり、親の送迎を求める意見が出る等、地域コミュニティの包容力低下を感じる</p> <p>② コロナ感染者への偏見と差別が、市民に不安を与えている</p> <p>上記の様に、新型コロナの影響はあらゆる分野に及んでおり、以前の課題解決の方法が通用しなくなっていることに加え、そのことが状況を一層深刻にしていることが分かった。コロナ禍の社会では、新しい社会通念、新しい日常が模索されており、その中で活動を継続していけるよう、新たな方法を考え、実行していくことが求められている。</p>
--------------------------	--

入力数 766 字

III.申請事業

<b>(1)申請事業の概要</b>
<p>きらきら基金の登録団体のうち、3つの領域に関連する90団体がオンライン会議を重ねて、コロナ禍の制約が多い状況下でも実行できる「新たな支援方法」を生み出し、それを実行していく。本事業は4つのステップで支援を行う。ステップ1は、オンライン会議に参加する団体を選出し1団体3万円の活動助成を行う。ステップ2は、その中から、オンライン会議で採択した「新たな支援方法」を実行する団体を選出し、対策費として1分野100万円の助成を行う。ステップ3は、きらきら基金に関係する団体・企業と共に事業実行への伴走支援を行う。ステップ4では事業の効果の検証を行い、追加の動きやさらなる有効な対策につなげて行く。</p>

入力数 294 字

<b>(2)活動(資金支援) (実行団体の活動想定)</b>	<b>時期</b>
<p>ステップ1. <b>オンライン会議で「新たな支援方法」を生み出す</b> ※1団体3万円×30団体=90万円×3分野=270万円</p> <p>⇒「コロナ禍での支援をどう行うか」をテーマに、困難を抱える人を支援するNPOがコロナ禍における活動の課題を出し合い、緊急性があると判断する課題に対して実行できる新たな支援方法を考える。1回の会議は15団体で行い、「新たな支援方法」が導き出され形になるまで複数回会議を重ねる。「新たな支援方法」が決定したら次の段階に進むが、ステップ2に進まず独自の解決方法で取り組むことを選択した団体は、最初の3万円の活動助成で実行する。</p>	2020年7月下旬～同年8月
<p>ステップ2. <b>「新たな支援の方法」を実行する</b> ※1分野100万円×3分野=300万円</p> <p>⇒ステップ1で決定した「新たな支援方法」の事業計画書を作成し、各会議に参加した団体が一緒になって実行する。または、参加団体実行団体として選出されたひとつの団体あるいは複数の団体が実行する。</p> <p><b>※想定される「新たな支援の方法」と費用</b></p> <p>「タブレットの貸し出し」タブレット契約料×12ヶ月×台数 (分野1、2)</p> <p>「アンガーマネージメントのDVDを作成し、学校、企業、施設の研修などで活用してもらう」DVDの作成費 (分野1、2、3)</p> <p>「新しい日常に向かって地域社会の課題を考える」ZOOM会議 開催費用 (分野3)</p>	2020年8月～2021年6月

<b>(3)活動 (資金分配団体による伴走支援)</b>	<b>時期</b>
<p>ステップ1. <b>オンライン会議への支援</b>⇒Zoom会議の有料契約を結び、会議の開催、会議の進行、資料のメール送付、議事録の作成などを行う</p>	2020年7月～同8月
<p>ステップ3. <b>実行団体への支援</b>⇒事前評価、事後評価の実施に関する助言等。月1回の実施状況の確認と事業評価に関する助言。事業の実施状況、取り組み事例の共有に資する情報公開等。実行にあたって必要な、機会の提供、場所の提供、広報の協力を、きらきら基金に係る他の団体や企業に呼びかけマッチングを行う。また、各市民活動センター、社協、自治会、行政などに、広報などの協力を依頼する。</p>	2020年8月～2021年6月
<p>ステップ4. <b>「効果の検証」と「フィードバック」</b>⇒取り組みの効果を検証して、きらきら基金の団体、企業、などに報告することにより、追加の動きや予算確保の検討も含め、さらに有効な対策につなげる。</p>	2020年8月～2021年6月

<b>(4)今回の事業実行を通じた目標</b>	<b>実施・到達状況の目安とする指標</b>	<b>把握方法</b>	<b>目標値/目標状態</b>	<b>目標達成時期</b>
<p>1.地域の団体間の連携や協力の拡がり</p> <p>2.新たな支援方法を生み出す</p> <p>3.新たな支援方法を実行する</p>	<p>1.オンライン会議への参加団体数</p> <p>2.新たな支援方法の数</p> <p>3.新たな支援方法の実行団体数と実行回数、及び参加受益者数</p>	<p>1.オンライン会議への参加団体のカウント</p> <p>2.新たな支援方法のカウント</p> <p>3.実行団体数と実行回数、及び参加受益者数のカウント</p>	<p>1.各分野30団体</p> <p>2.各分野1つ以上の新しい支援方法</p> <p>3.各分野1団体以上、年間20件以上の実行数、年間200人以上の参加受益者数</p>	<p>2020年8月</p> <p>2020年8月</p> <p>2021年6月</p>

<b>(5)事業実施後 (1年後) 以降に目標とする状態</b>
<p>コロナ禍で深刻化・顕在化した課題を地域・関係団体全体で共有し、取り組み、問題解決に導いていること。</p> <p>地域の団体同士が電話1本でつながり、緊急を要する課題が発生した時に支援し合えるような関係が出来ていること。</p> <p>新しい方法の取り組みを通して、団体と団体、団体と企業、団体と行政が協力して行うパートナー事業が増えていくこと。</p>

入力数 160 字

IV.実行団体の募集

<b>(1)採択予定実行団体数</b>	各分野1団体～90団体	<b>(2)1実行団体当たり助成金額</b>	3万円～103万円
<b>(3)申請数確保に向けた工夫</b>	<p>ステップ1.オンライン会議への参加候補団体数(90)：スピード感を重視しできるだけ多くの該当団体を支援するために、きらきら基金登録団体の中から募集する。会議に参加して課題の共有と解決方法の検討を行った後、ステップ2に進まず独自の解決方法で取り組むことを選択出来ることで、応募しやすい募集内容としている。</p> <p>ステップ2.実行団体候補数(9)：オンライン会議に参加した団体の中から選出する。新たな支援方法がひとつの場合、複数の団体が分担して実行出来ることとする。</p>		
<b>(4)予定する審査方法</b> (審査スケジュール、審査構成、留意点等)	<p>ステップ1.【公募】7月上旬～7月中旬 【審査】7月中旬 【審査方法】きらきら基金運営委員が申請書と団体取材調査をもとに選出する</p> <p>ステップ2.【公募】8月中旬 【審査】8月中旬～下旬 【審査方法】きらきら基金運営委員がオンライン会議に参加して、支援方法の内容、会議の状況や実行能力を勘案して選出する</p>		

V.事業実施体制

<b>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</b>	【みえきた市民活動センター】事業の事務局と伴走支援【きらきら基金運営委員会】実行団体の審査と取り組みの評価【プログラムオフィサー】伴走支援
<b>(2)他団体との連携体制</b>	きらきら基金に係る他団体や社会貢献を行う企業に、実行団体の取り組みへの協力を依頼する
<b>(3)想定されるリスクと管理体制</b>	オンライン会議やメールを活用することや実行団体の事業がコロナ禍の状況下でも行える支援方法であることから、感染のリスクは少ないと想定されるが、伴走支援を行う際には、検温とマスク着用、消毒液携帯の確認を行う。

VI.関連する主な実績

<b>(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無</b>			
<b>①コロナウイルス感染症に係る事業</b>			
<p>本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)</p>	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細
<p>本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金(ふるさと納税を財源とする資金提供を含む)を受けていない。</p>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります(公募要領：助成方針参照)	

本申請事業以外の事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
<b>②その他、助成金等の分配の実績</b>				
<b>【市民活動応援☆きらきら基金助成事業】</b> 2011年10月～2020年3月までに4,264,152円の寄付が集まり、3大賞・111団体・35事業・7高校に、3,719,400円を助成した。今年度もシーズン9に取り組む。				
<b>(2)申請事業に関連する調査研究、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等の実績</b>				
<p>当団体が伴走支援の一環として事務局を担っている「桑員まちなファンクラブ」「桑名市協働運営委員会」「市民活動応援☆きらきら基金」のML上で、新型コロナウイルスに関連した動きとして、4つのアンケート調査への協力依頼、20件ほどの会員間の活動状況の情報交換や助成金情報などのメールのやりとりを行った。</p> <p>また、当団体の事業のひとつである「企業の社会貢献活動紹介」においてつながりのある企業や団体から「布マスク、手作りマスクの提供」や「学校休校で残ってしまった給食材料の提供」を受け、学童保育所や子ども食堂、市民活動団体に紹介するなどのマッチングもおこなっている。</p>				